

ピアノを弾こう!

教室訪問 PART 2 第2回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

子どもらしさと繊細な感性を引き出す男子の導入期レッスン

レッスンの現場を訪ねる“教室訪問”シリーズPART2の第2回は、茨城・取手市のヤマハ特約楽器店「セイワ楽器」のピアノ教室だ。「導入期レッスンを受けている生徒の半分が男子」という、佐藤薫子先生の教室のレッスン風景を取材した。

今月のピアノ教室

茨城・取手市／セイワ楽器取手駅前センター



ヤマハ特約楽器店「セイワ楽器」の音楽教室「取手駅前センター」では、全教室にグランドピアノを備え、充実したレッスンを受けられる。センター内に広々としたミニホールがあることも特徴で、レッスンの成果を披露する発表会やコンサートも行われている。■茨城県取手市新町1-8-50 ☎0120-02-7588/JR常磐線「取手駅」より徒歩3分



毎日1時間くらい、練習してるよ

さあ、レッスンしましょっ!

今月の先生と生徒

佐藤薫子先生

さとう・くにこ ●セイワ楽器のピアノ科講師として、週4日教える。ヤマハ音楽振興会東日本エリア所属のPSTA講座スタッフ。『先生が選んだピアノ発表会名曲集』(ヤマハミュージックメディア刊)の運指・解説ほか、「NEWピアノスタディ」のテキスト制作委員会にも参加。

けん と 竹森健人くん(小1)

ジュニア科(主にエレクトーンでのグループレッスン)を経て、8月から佐藤薫子先生のピアノの個人レッスンを受け始めたばかり。テニスも好きで、大人になったら「錦織圭選手のようにになりたい」そう。

佐藤先生のレッスン流儀

季節や色の変化に敏感な感性や、心を育てる教え方を心がける

取材数日後、健人くんからこんな感想が届いた。「これからもくに先生と音のくふうや、音がくのくふうをしながら、たのしくピアノをひいていきます」

初めての“取材体験”に、緊張気味だった健人くん。緊張をほぐすように、笑顔で話しかけながらレッスンをする佐藤先生。



弾きにくい部分の指づかいは、ワークブックを活用しながら。



レッスンの仕上げは、健人くんの演奏を佐藤先生がエレクトーンで華やかにサポート。

アンサンブルの経験がある健人くんは、両手でも十分に弾けるが、最初は片手ずつ弾くところから。ポイントとなる指運び(指のつかい方)を丁寧に教える。

このメロディは、どんな色のイメージ?

佐藤薫子先生の“今日の教え子”は、本格的なピアノ歴2カ月の竹森健人くん。あいさつを終えてすぐに、佐藤先生は健人くんを窓際に誘った。「空が青いねえ。高くなってきたねえ」

レッスン中に楽譜を指差しながら「この部分は、どんな色?」と、佐藤先生が健人くんに見せる。「ピンク!」「ここは?」「オレンジ!」「次のパートは?」「黄緑から緑!」

曲は、11月に楽器店主催コンサートで自由曲に選んだ「よろこび」だ。健人くんは、明るい気分

で始まって中盤で盛り上がり、後半は少しずつ落ち着いた感じで弾きたい、ということが、その色のイメージから伝わる。

ピエスタエー PSTAによる共通テキストを使いながらも、教え方は先生の個性によって十人十色。とりわけ佐藤先生は、「雨の降り方、落ち葉の舞い方…季節や色の変化な

どもにも敏感にアンテナが立つような“感性の導き”を大事にしている。「その子の感性を音・音楽に紡ぎ、表現のためのテクニックを身につけられたら、本当に弾くことが楽しくなると思うんです」

佐藤先生は、幼児から70代まで約60人を教える。小学生までの生徒の半数が男の子だ。ナイー

ブでシャイな子も多いので、一緒に歌ったり、アプローチの仕方を工夫したり。レッスン中は、NEWピアノスタディに織り込まれている音楽のさまざまな要素を活かし、音・言葉で

繰り返し問いかけて心のドアをノックし続ける。

最近では、かつての教え子が自身の子どもをレッスンに通わせてくれることも増えたそう。ピアノを弾く教え子たちの「心を捉え、弾きたい気持ちを育てる。そんなワクワクするレッスンをしたいと思っています」